

南アフリカ 生食用ブドウ輸出が港湾の混乱で停滞

[The Grape Reporter 2025年12月11日](#)

国際競争が激化する中、輸出ペースが鈍化

南アフリカの生食用ブドウシーズンは、これまでのところケープタウン港での検査の増加、悪天候、さらに南半球諸国との競争激化により、輸出ペースの鈍化に見舞われている。南アフリカ生食用ブドウ協会(SATI)によると、第48週(11月末)時点で前年同期比15%増の500万箱(4.5kg/箱)が輸出検査済みであった。しかし実際に出荷されたのはその数分の1に当たる102万箱に過ぎず、前年同期の半分以下であった。

この大きな乖離は、港のメインターミナルにおける強風及び運営上の問題による長期の遅延の直接的な結果である。同協会によると、11月にはケープタウン港で過去5年間で最長の414時間もの強風による運用停止が発生した。このため、作業を早めようとする同協会の一層の取組みにもかかわらず、検査済み果実と実際の出荷量の間に398万箱の滞留が生じ、在庫の一部は冷蔵倉庫や出航できなかった船舶内に留まった。

2025-26年度シーズンの見通し

全国的には、南アフリカの今シーズンの生食用ブドウ予想収穫量は、前年よりやや多い7,940万箱を維持している。第48週に最も多く輸出された品種はアーリースイート®、プライム及びスターライトであった。現在、北部諸州では収穫と梱包が進み、前年同期比20%増の225万箱に達しており、局地的な降雨にもかかわらず果実の状態は良い。オレンジ川流域では前年同期比11%増の276万箱で、サイズ、色、品質は良好である。オリファンツ川、ベルク川及びヘックス川の流域では良好な気候条件により、予想どおり第49週(12月上旬)から第52週(12月下旬)にかけて収穫量が増加する見込みである。

南半球の競争

SATIは、地域の生食用ブドウの供給量が国際市場への圧力を高めていると警告している。第48週までに、ナミビアは前年同期比11%減の370万箱を梱包した。ペルーは安定的に4,840万箱の出荷を維持しており、年間では前年比4%増の1億5,600万箱と推計される。チリは1万5,234箱で始まり、年間では前年より6.9%少ない1億1,500万箱と予想されている。

流通・販売・出荷業者のケープスパン社でゼネラルマネージャーを務めるシャール・デュボワ氏は、南アフリカの輸出ピーク(第49週(12月初旬)～第8週(2月中旬))がペルーのピーク(シーズン初期)及びチリのピーク(シーズン後期)と重なるため、**南半球の生食用ブドウの商業的出荷期間は、ますます競争が激しくなっている**と述べた。さらに、南半球のブドウ生産国の輸出量は過去3年間で増加した。同氏はSATIへのコメントで、「南アフリカ、ペルー、チリの品種構成も変化した。例えば、チリでは多収性新品種の割合が過去10年間で8%から72%にまで上昇した」と述べた。

同氏はまた、**北半球諸国の出荷期間が長くなっている**ことから、多くの南半球諸国からも大量の供給が見込まれると述べた。ナミビアと南アフリカのシーズン開始は物流上の問題でやや遅れたが、両国とも良好な収穫量と品質が期待される。同氏は、「2026年2月より前の南半球の出荷シーズンにブドウ不足が生じる可能性は低い」と述べ、生産者と輸出業者が品質と供給の安定性に注力する重要性を強調した。

南アフリカ産生食用ブドウの物流の展望

トランスノバ社が開発した予測モデルは、第50週及び第51週(12月上中旬)にケープタウン港で深刻な遅延が発生した場合、オレンジ川流域等の業者は、数百万ドル規模の損失を回避するため、出荷の大部分をコエガ港(東ケープ州)へ迂回させるべきであると警告している。影響が大きいシナリオでは、代替措置を講じない場合、追加の保管コストに加え、最大670万ドルの損害賠償請求が発生する可能性があるとされている。